

式 辞

厳しい寒さも日ごと和らぎ、校門の桜の蕾も膨らみはじめ、新たな命を育む春の息吹を感じる今日の佳き日に、大阪府立桃谷高等学校通信制の課程第51回卒業証書授与式を挙行了いたしましたところ、お忙しい中、大阪府教育委員会より 西川 耕平(にしかわ こうへい) 様をはじめご来賓の皆様、並びに保護者の皆様やご家族、関係の方々のご臨席を賜り、卒業式を挙行できますことを、教職員一同大変嬉しく思っております。高いところからではございますが厚くお礼申し上げます。

只今、通信制の課程 日夜間部123名、昼間部248名、計371名の生徒の皆さんに卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、これまで成長を見守ってこられた保護者並びにご家族、関係者の皆さまにおかれましても、本日の晴れ姿をご覧になって、さぞかしお喜びになっておられるものと拝察し、心からお慶び申し上げます。それとともに、これまで本校教育の推進に賜りましたご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

皆さんが、本日、晴れて卒業の日を迎えることが出来たことは、困難な状況を乗り越えようと、時にはくじけそうな気持ちを奮い立たせて、それぞれが、たゆまぬ努力を積み重ねてきた賜物であることは言うまでもありません。その努力に対して、心から称賛の拍手を送りたいと思います。

しかし、皆さんが努力を続けることが出来たのも、また、その努力が実を結ぶことが出来たのも、皆さんを陰に日なたに応援してこられたご家族の方々や先生方を初め多くの人々の思いに支えられてのことだということ、そして、同窓会はじめ地域社会の方々の深いご理解とご支援によるものであることを忘れないでください。

さて卒業生の皆さん、それぞれの期間をこの桃谷高校で過ごしたわけですが、多くの思い出とともに、これからの未来に向けて、夢と希望をふくらませて、この場に臨んでいることと思います。本年度を振り返りますと5月の遠足、9月には体育祭、10月には定時制通信制生徒秋季発表大会、11月の球技大会、12月の文化祭、近畿通信制高等学校体育大会というように、いろいろな学校行事や大会において皆さんの頑張り、成長の姿を、大変うれしく見させていただきました。特に定通秋季発表大会では知事賞を受賞したり、近畿通信制の生活発表大会での「特別賞」の受賞、そして近畿通信制体育大会では各クラブの活躍により女子の部で「総合優勝」とほんとうに成果を収めてくれました。

また勉強面では卒業に向けてレポート作成、スクーリング出席、テストと大変なことを乗り越えてここまで来られたこと、本当にうれしく思っております。

さて、卒業という節目に当たり、今年度私が印象に残っているお話しをして、はなむけの言葉にしたいと思います。

現在は札幌の冬季アジア大会で日本選手の活躍が報道されていますが、少し前の話になりますが、まだ皆さんの記憶に鮮明に残っていると思われます、昨年夏にブラジルで行われたリオオリンピックの日本代表

選手の活躍です。日本は、41 個のメダルを獲得しました。体操、水泳、柔道、レスリング、卓球等 印象に残る競技がありましたが、なかでも私にとって、陸上男子 400mリレーは感動的でした。日本では最強のスプリンターの4人ですが、個々の力では10秒を切ることのできない日本チームが、他の強豪国を抑え、ジャマイカに次いで見事銀メダルに輝きました。強豪国と比べて個々の力では劣る日本は、以前からバトンパス時のタイムロスが少ないアンダーハンドパスを採用。オリンピック本番に向けては、走者が従来よりも離れた位置から腕を伸ばしてパスすることで距離を稼ぐ改良型に取り組んだ結果の結晶でした。個々の力ではかなわなくてもチームとして協力し、あきらめず努力をして戦った時の力が見事実を結んだことを証明してくれました。

二つ目は、東京工業大学栄誉教授の大隅良典(おおすみ・よしのり 71歳)氏が「オートファジーのメカニズムの発見」でノーベル生理学・医学賞受賞されたことです。

オートファジーとはギリシャ語由来で「自分を食べる」という意味で、細胞が不要になった構成要素を自分で分解して再利用する仕組みのことです。大隅さんは「研究は失敗や『あれ?』と疑問に思うことからスタートすること。また研究は一人でやりおおせるものではなく、28年間、私の研究室でたゆまぬ努力をしてくれた大学院生、スタッフの方々の努力のたまものだと思っています。」と述べられました。

この二つの話題を通じていえることは「途中であきらめずに最後までやり通す」「協力して物事を成し遂げた時のパワーの凄さ」ということではないでしょうか。たとえ苦しくても、地道にコツコツと努力を続けることが大切です。可能性を信じて、信頼できる周りの仲間と協力して努力を怠らず、「夢を形に」を実現していきましょう。一人ひとりの心の中に眠る「無限の可能性」や「無限の力」を目覚めさせてほしいと思います。

皆さんが卒業後どんな進路を取ろうとも、すべて計画どおりに物事が進むとは限りません。むしろ、理想とは違った困難な状況の中で絶えず計画したことを修正していかなければならない、そうしたことが現実的には多いのではないのでしょうか。しかし、そうした現実に出会い、悩み、あれこれ迷い、決断していくという過程を経験して、人は逞しく生きていけるのだと思います。皆さんには、困難な状況になった時には、先ほどお話ししました言葉を思い出して、乗り越えてほしい、そう願っています。

皆さんの卒業にあたり、私の願いをはなむけとして、お話させていただきました。

これから新しい人生への今日の旅立ちを心からお祝いするとともに、ご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。式辞と致します。

平成29年2月26日

大阪府立桃谷高等学校 通信制の課程

准校長 八巻 敏幸